

危機における安らかな眠り

詩編三編

主に向かって声を上げれば／聖なる山から答えてくださる。

私は身を横たえて眠り、目を覚ます。主が私を支えておられるから。(5, 6)

息子アブシャロムに命を狙われるような危機的状況の中で、ダビデは主に対する信仰を確認します。主なる神の存在こそ、ダビデにとっての大きな望みであり、何よりの助けでした。明日の命などないかもしれないという危機の中、今日の聖句にあるように、荒野においてさえもダビデは安らかな眠りにつきます。まるで王宮で寝ていたかのように、朝の光を浴びて気持ちよく目覚めるダビデの姿が見えてくるようです。自分の命を主なる神に委ねきっている者が持つ落ち着きがそこにあります。ダビデは徹底して主に信頼していたのです。私たちも危機的状況に陥るとき、眠れぬ夜を過ごすことがあります。夜の闇と共に不安の波が押し寄せてくるとき、「しかし主よ」と呼びかけようではありませんか。「主が私を支えておられる」という確信をもって。ダビデの神が私たちの神なのですから。